資料２

令和５年(第１７回)みどりの学術賞選考委員会
委員長コメント

令和５年（第１７回）みどりの学術賞受賞者の選考にあたり、選考委員会は、みどりに関する学術研究に造詣の深い全国の学識経験者約４４０名の方々に対し、受賞に相応しい候補者の推薦を依頼いたしました。

その結果、候補者として、大変幅広い研究分野から８０名の受賞に相応しい研究者を推薦していただきました。

選考委員会は、推薦のあった方々の業績を慎重に調査・審議し、遺伝育種学分野と森林遺伝学分野で活躍されているお二人の方が受賞に相応しいとの結論にいたりました。

受賞者のお一方は、国立遺伝学研究所名誉教授の春島（倉田）のり博士です。国際連携によるイネゲノムプロジェクト研究に参画し、イネの生殖に関わる遺伝子機能を解明するなどの研究成果をあげられました。また、イネの多様な品種改良の研究基盤構築に尽力され、植物研究者のコミュニティの発展にも寄与されるなど、食糧の安定的な生産につながる植物科学や植物遺伝学の発展に大きく貢献されました。

もうお一方は、筑波大学生命環境系教授の津村義彦博士です。森林遺伝学的観点から、我が国の主要樹種の遺伝的地域性を明らかにするとともに、熱帯材の樹種識別の技術開発を主導するなどの成果をあげられました。また、国内外の森林生態系保全に向けた研究の進展に尽力され、森林資源の持続的な利用のためには森林の遺伝的な保全管理が重要であることを提言されるなど、国内外の森林の保全に大きく貢献されました。

受賞者のお二人は、いずれも学術的な観点から極めて優れた業績を修められただけでなく、人類とみどりとの関わりについて深く追求され、みどりを活かして暮らしていく未来を示されました。

選考委員会を代表し、両博士の永年に渡るご研鑽に対し、心から敬意を表するとともに、みどりに関する学術が新たな知をもたらし、社会を動かす源泉になることを期待いたします。

令和５年３月１０日

みどりの学術賞選考委員会委員長
丹　下　　健